

令和4年(2022年)11月28日
「ほんもろこシンポジウム」

ホンモロコ資源の現状

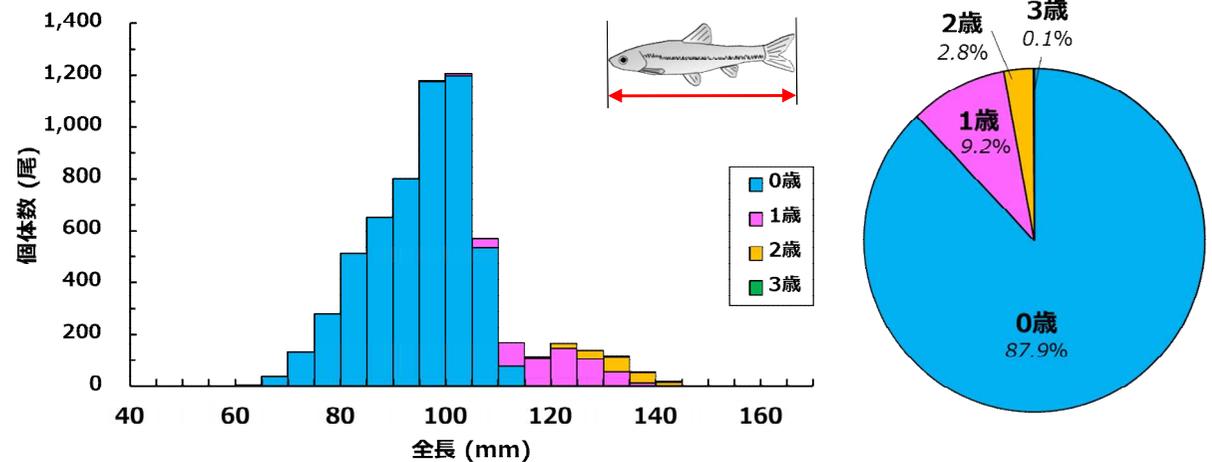
滋賀県水産試験場 栽培技術係
専門員(兼)係長 根本 守仁

ホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* とは

- 琵琶湖固有種。コイ科。
- コイ科の魚の中で最も美味ともいわれている。
- 琵琶湖漁業における重要漁獲対象種のひとつ。
- 1年で約10cmに成長する。その後は緩やかに成長して大きな個体では約15cmに達する。
- 生まれてから満1年で成熟。
- 寿命は、多くの個体が1年であるが、2～3年生きる個体もいる。

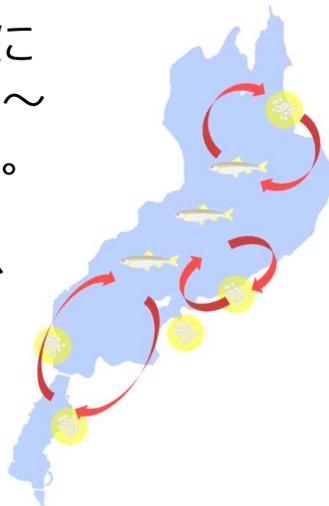


2022年1～2月に沖曳網で漁獲されたホンモロコの全長組成と年齢構成

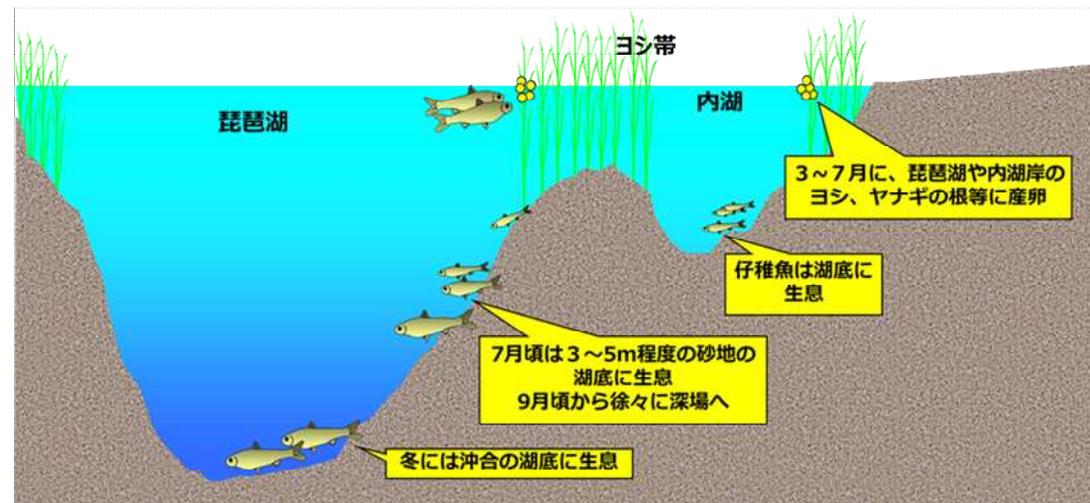


ホンモロコイの生活史

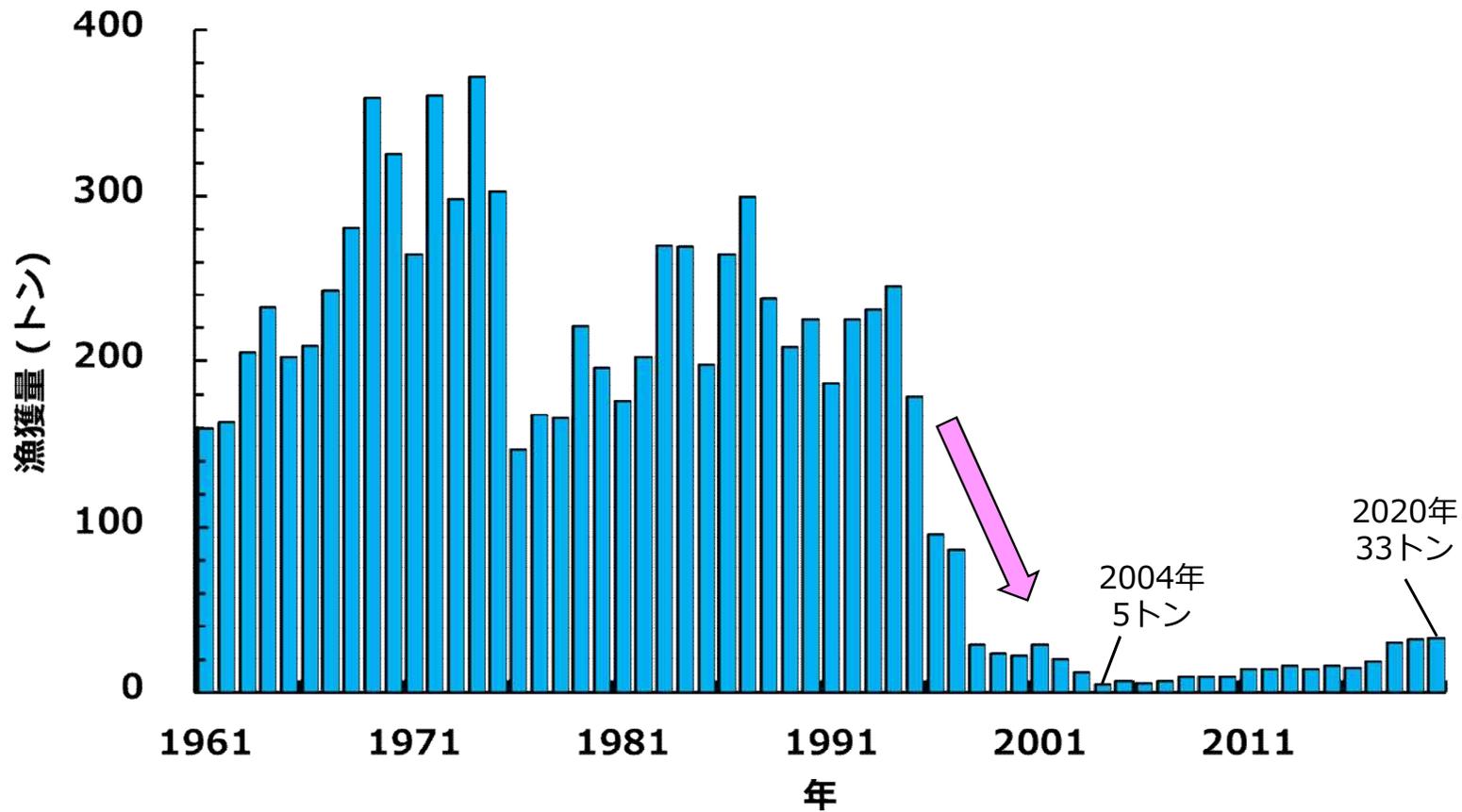
- 産卵時期は、3～7月(盛期：4～6月)。
- 産卵場所は、琵琶湖や内湖沿岸のヤナギの根やヨシ等、または流れのある河川。
- 特に、沿岸部では、水面ギリギリのところに産卵する。
- 各個体は、シーズン中に10～20日程度の間隔をあけて複数回産卵を行う。
- 普段は水深5 mまでの浅水域に生息するが、水温の低下とともに深場へ移動し、冬季には水深60～80mといった深場で越冬する。
- 近年の研究では、サケと同様に、産卵回帰する可能性が示唆されている。



ヤナギの根に産卵するホンモロコイ



ホンモロコの漁獲量の推移

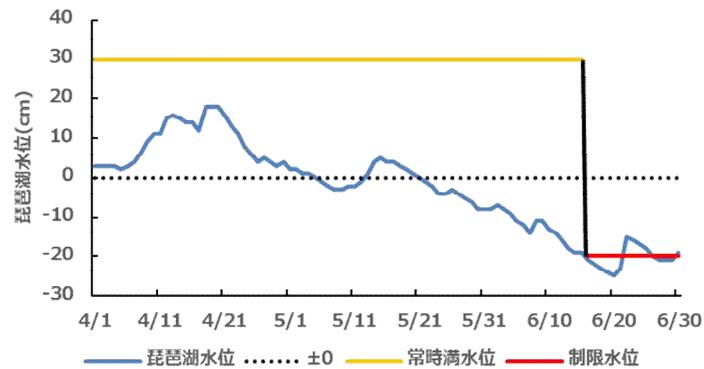


出典：～2009 滋賀農林水産統計年報(近畿農政局 滋賀農政事務所)
2010～ 内水面漁業生産統計調査(農林水産省)

ホンモロコ資源の減少要因

- 人為的な水位操作
- 湖岸の改変や開発に伴う産卵繁殖場所の減少や悪化
- 外来生物による影響、等

ホンモロコ卵の干出



外来魚による食害

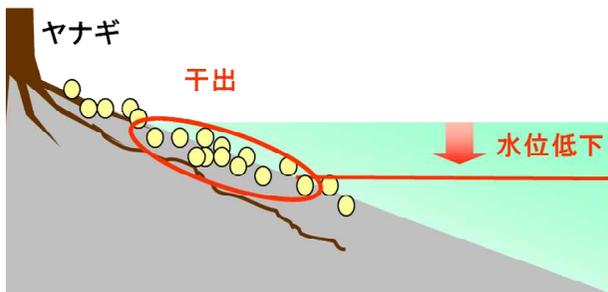
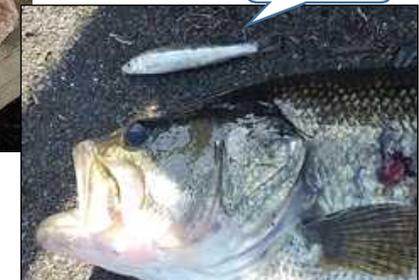
オオクチバス



ブルーギル



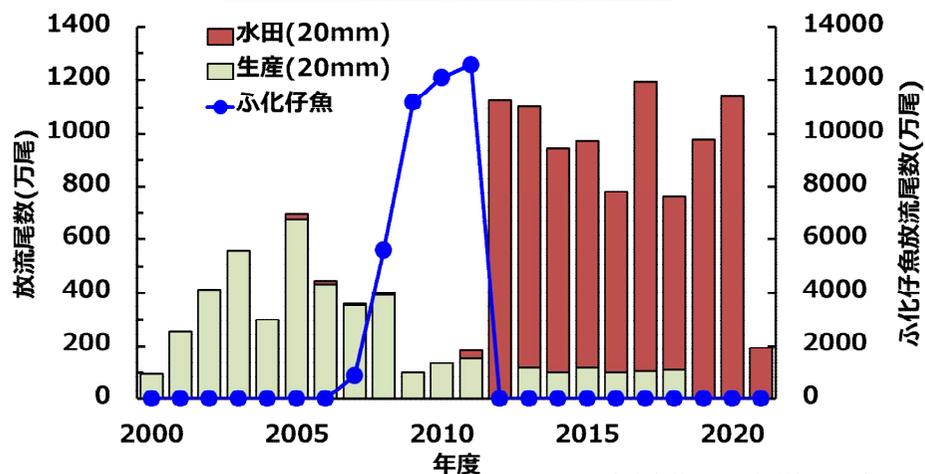
吐き出した
ホンモロコ



ホンモロコ資源回復のための取り組み1

種苗放流

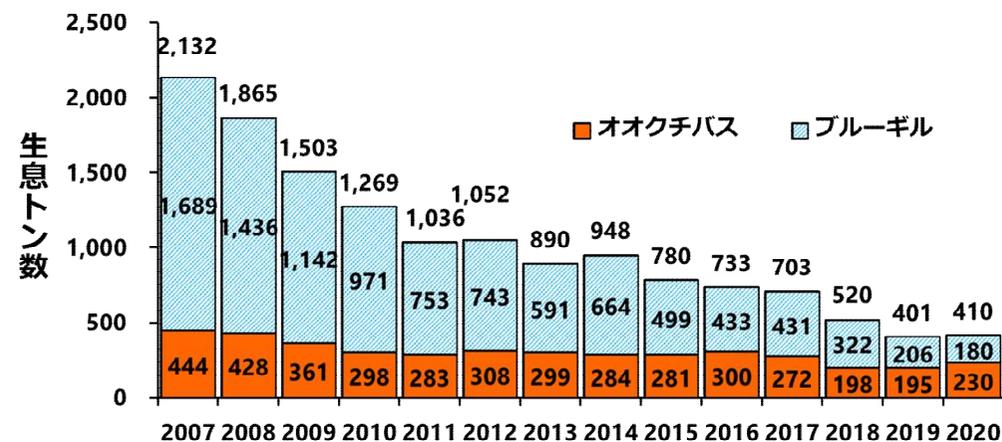
- 技術開発を進めながら、効率的な手法で展開
- 近年では、水田を活用した稚魚(全長2cm)放流を実施



実施主体：(公財)滋賀県水産振興協会

有害生物の駆除

実施主体：滋賀県漁業協同組合連合会



ホンモロコ資源回復のための取り組み2

水草刈り取りによる生息環境の改善



産卵に適した水位操作の検討

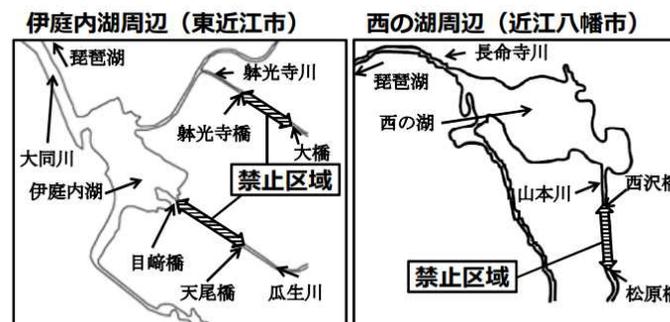
ex.2017について5月末まで水位を+4cmに維持するようシミュレート



- 西の湖
干出死亡卵 50% → 40%
- 長浜市延勝寺地先
干出死亡卵 49% → 3%

資源管理

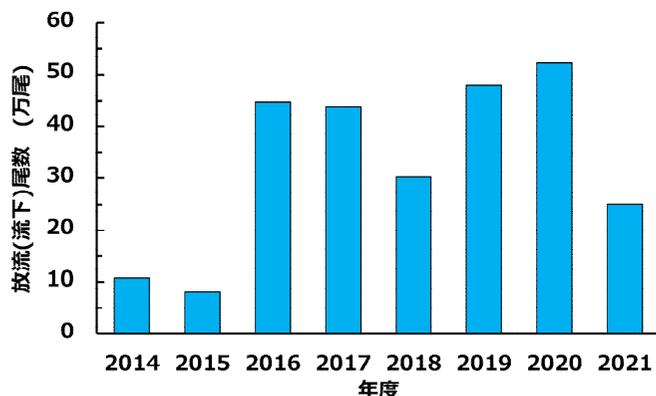
- 滋賀県漁業調整規則
禁漁期間、禁漁区域、等
- 委員会指示
伊庭内湖や西の湖周辺での採捕禁止(4/1~5/30)
(滋賀県内水面漁場管理委員会指示 2017~)
- 漁業者による自主的な取り組み
5~6月の採捕禁止



ホンモロコ資源回復のための主な取り組み3

ホンモロコの産卵回帰性や放流魚による再生産も視野に入れた集中的な取り組み
～ 赤野井湾周辺での取り組み～

● 水田を活用した稚魚の放流

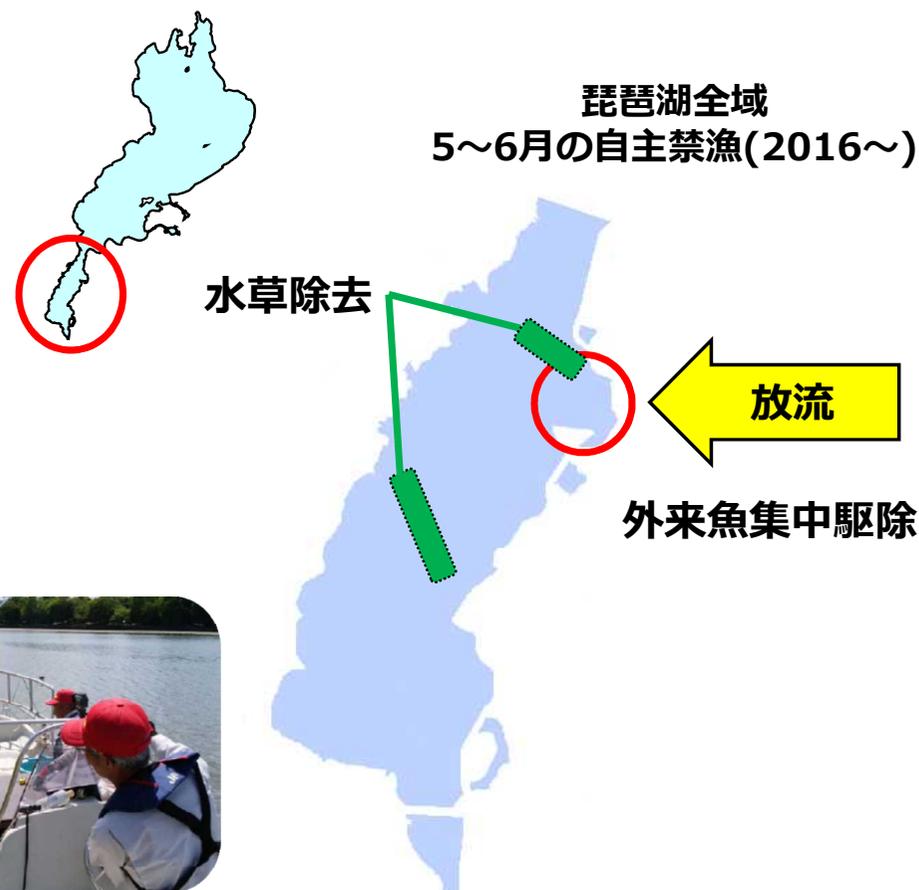


● 水草の除去

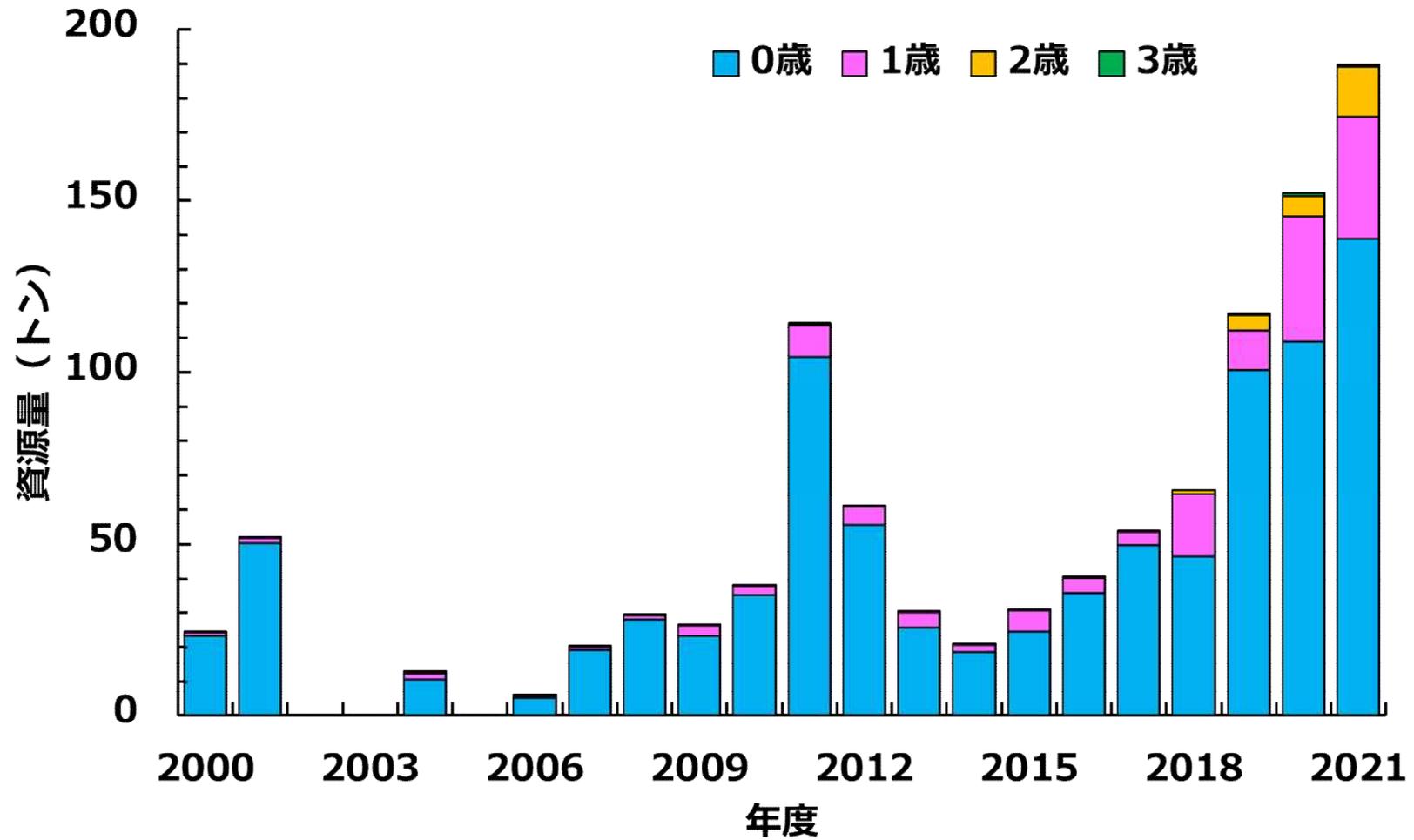
- ・ 生息環境の改善や水草の少ない水域までの稚魚の移動経路の確保

● 外来魚の集中的な駆除

- ・ 電気ショッカーボートによる集中駆除
- ・ タモ網すくいによるオオクチバス仔魚の駆除

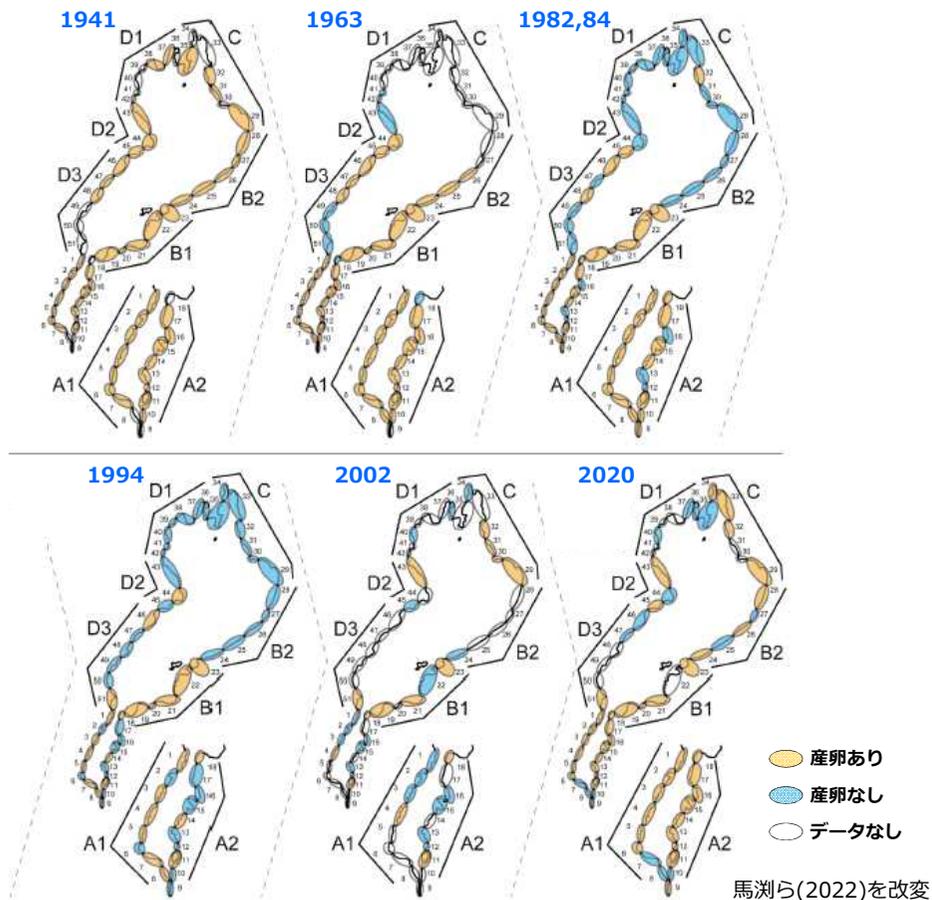


ホンモロコ資源の回復(資源量)



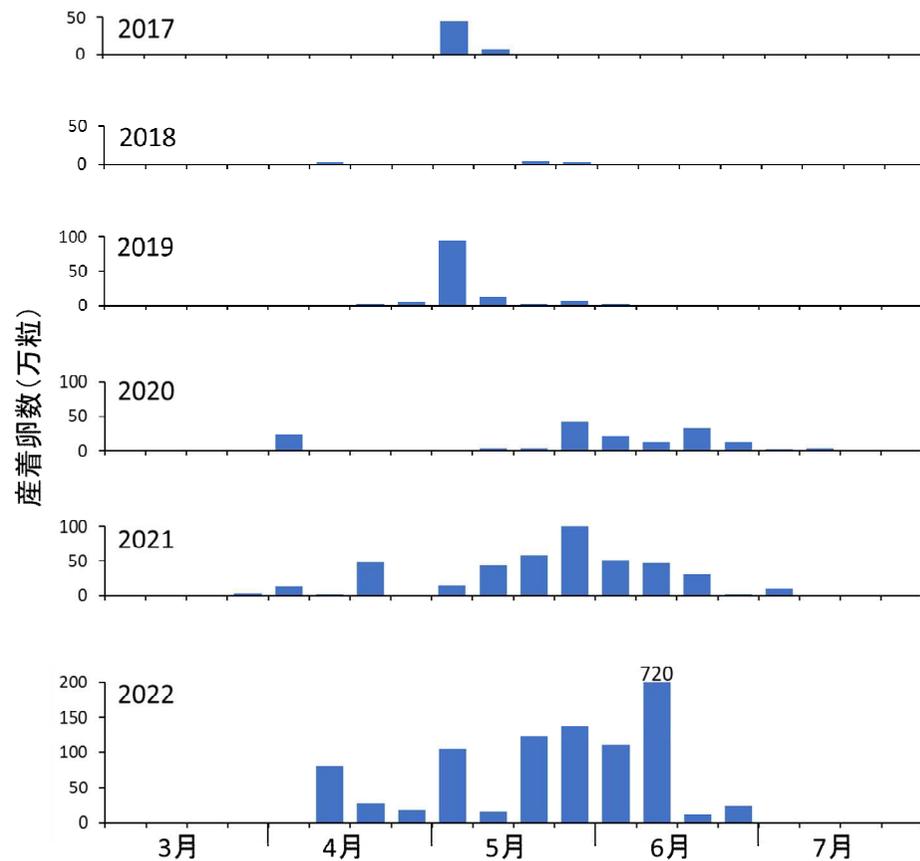
ホンモロコ資源の回復(産卵場と産卵期間)

ホンモロコ産卵場の変化



→ 産卵場所の拡大

ホンモロコ産卵調査結果 ～守山市赤野井地先の調査水域内での産卵量～



→ 産卵量の増加と期間の長期化







終わりに

- これまでの取り組みにより、ホンモロコ資源は大幅に増加してきている。
- 資源の回復に対して、漁獲が伸びていない。
→過剰な漁獲になっておらず、まだ漁獲に余裕がある
- 今後も様々な対策に取り組むとともに、適切に管理していくことで、資源水準を維持・回復させ、持続的にホンモロコが利用できるように努める。

